

# 令和8年度採用

## 山梨県公立学校教員選考検査

### 高等学校・地歴（日本史）問題

「始め」という合図があるまで、このページ以外のところを見てはいけません。

#### 注 意

- 1 この問題は5問6ページで、時間は60分です。
- 2 解答用紙は、別紙で配付します。「始め」の合図で始めてください。
- 3 解答は、それぞれの問題の指示に従って解答用紙に記入してください。
- 4 「やめ」の合図があったら、すぐやめて係の指示に従ってください。
- 5 解答用紙を持ち出してはいけません。

## 高等学校 地理歴史（日本史）

1

次の（1）～（10）の問い合わせに答えよ。

- (1) 主に冷帯のタイガ地域に分布し、灰白色で酸性の成帯土壌を何というか、カタカナで記せ。
- (2) 亜熱帯高圧帯から赤道低圧帯に向かって吹き、北半球では北東の風向きとなっている恒常風を何というか、記せ。
- (3) 発展途上国の首都などに多くみられ、国の政治・経済・文化などの機能が極端に集中し、人口規模でも第2位の都市を大きく上回っている都市を何というか、カタカナで記せ。
- (4) 中国の戦国時代末期の儒家で、孟子の性善説に対して性惡説をとなえ、社会の秩序を維持するための礼を強調して、法家の韓非や李斯を門下生とした人物は誰か、記せ。
- (5) ナポレオンとローマ教皇ピウス7世の間で結ばれ、フランス革命中に否定されたカトリック教会の復権を承認する一方、フランス革命時の没収教会財産は返還しないことなどを内容とした和約を何というか、記せ。
- (6) 1993年にノルウェーの調停により、イスラエルとパレスチナ解放機構（PLO）が相互承認やパレスチナ人の暫定自治政府の樹立で合意して調印した協定を何というか、記せ。
- (7) 670年、天智天皇のもとで作成された、国内最初の戸籍を何というか、記せ。
- (8) イエズス会宣教師の勧めにより、九州の大村・大友・有馬の3大名が1582年にローマ教皇のもとに派遣した少年使節を何というか。記せ。
- (9) 民友社を創立し、雑誌『国民之友』を創刊して平民政義をとなえたが、日清戦争を機に国権主義に転じ、対外膨張の国家主義をとなえた人物は誰か、記せ。
- (10) 2007年から2022年の期間、希少金属の一種であるレアアース鉱石の生産量が一貫して世界全体の50%以上を占めていた国はどこか、国名を記せ。

2

次の（1）、（2）の問い合わせに答えよ。

- (1) 10世紀から11世紀の日本において、浄土教が貴族や庶民に広まった背景について、浄土教の教えの内容も含めて説明せよ。
- (2) 1663年に江戸幕府によって発せられた「殉死の禁止」の内容と意義を説明せよ。

- 3** A～Cに関して、(1)～(13)の問い合わせに答えよ。

A 次の年表は、8世紀から9世紀半ばまでの主な出来事をまとめたものである。

年	出来事
710	都が <u>①平城京</u> へ遷された。 ↑X
743	墾田永年私財法が発せられた。 ↑Y
794	<u>②都が平安京へ遷された。</u> ↑Z
858	藤原良房が摂政となった。

- (1) 年表中の下線部①について説明した次の文章中のア～ウに適する語句を、それぞれ記せ。

平城京は、唐の都（ア）にならい、碁盤の目状に東西・南北に走る道路で区画される（イ）制をもつ都市であった。都は中央を南北に走る（ウ）大路で東の左京と西の右京にわけられ、北部中央には平城宮が位置していた。

- (2) 年表中の下線部②について、このときの天皇は誰か、記せ。

- (3) 年表中のXの期間について、723年に出された三世一身法の目的と内容を説明せよ。その際、[ ]内の語を必ず一度は使い、最初に使用した箇所には下線を付せ。

[灌漑 人口増加]

- (4) 年表中のZの期間について、802年に胆沢城に鎮守府が移されるまで陸奥国の国府と鎮守府がおかれた、律令国家による古代東北地方の政治・軍事の拠点となった城柵の名称を記せ。

- (5) 次のア～ウは、年表中のX～Zのどの期間の出来事か。それぞれ一つ選び、記号で記せ。

ア 空海が高野山に金剛峯寺を開いた。

イ 道鏡が太政大臣禪師となった。

ウ 国分寺建立の詔が出された。

B 次の文章は、鎌倉時代から室町時代にかけての経済と社会について説明したものである。

室町時代には鎌倉時代から続く③農業技術の進歩に伴い、農業生産力が向上した。このことは鎌倉時代後期から進行していた小農民の自立を一層促進し、畿内などでは④惣村が形成され、⑤南北朝期には各地に広まっていた。生産性の向上は農民を豊かにし、物資の需要を高めて農村にも⑥商品経済が深く浸透していった。商品経済の発達は、⑦貨幣の流通量を増大させた。

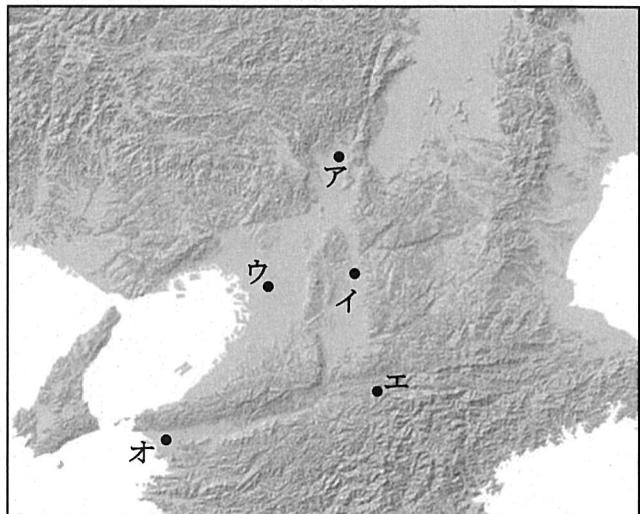
- (6) 文章中の下線部③に関して、室町時代における農業技術の進歩について説明した次の文ア～エのうち、内容に誤りを含むものを一つ選び、記号で記せ。

- ア 紙の原料の楮、塗料の漆、染料の藍など、原料の栽培が盛んになった。
- イ 稲の品種改良が進み、収穫期により早稲・中稲・晚稲の作付けが普及した。
- ウ 地味向上のために、干鰯・草木灰・下肥などの肥料が広く用いられた。
- エ 鉄製の鋤・鋤・鎌などの農具使用や、牛馬を用いた耕作が広く普及した。

- (7) 文章中の下線部④に関して、惣村の運営について説明した次の文章中のア～ウに適する語句を、それぞれ記せ。

惣村は( ア )という村民の会議の決定に従って、運営された。また、村民はみずからが守るべき規約である( イ )を定めたり、村内の秩序維持のために村民自身が警察権を行使したりすることもあった。また、領主への年貢納入を村が一括して請け負う( ウ )もしだいに広がっていった。

- (8) 文章中の下線部⑤について、後醍醐天皇が南朝を置いた位置として最も適当なものを、畿内とその周辺の地形を示した次の地図中のア～オから一つ選び、記号で記せ。



注) 地形や海岸線は現在のものである。

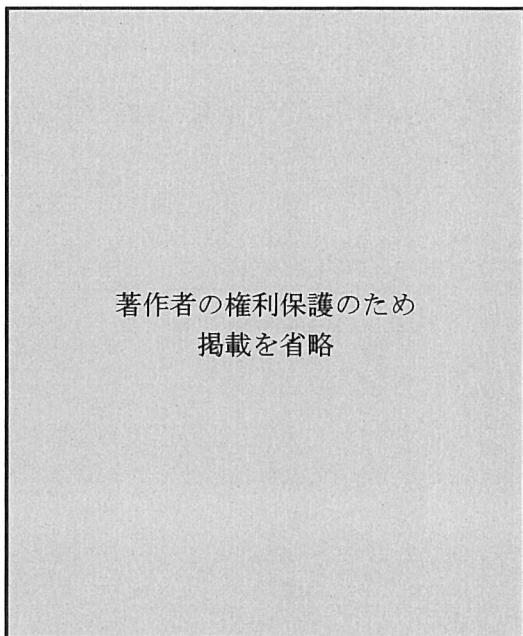
(「地理院地図」により作成)

- (9) 文章中の下線部⑥に関して、この時代に京都などの大都市で一般化した常設の小売店でみられた、軒端に棚を設け商品を並べて販売する方式を何というか、記せ。

- (10) 文章中の下線部⑦について、この時代に行われた「撰錢」について、それが行われた背景も含めて説明せよ。その際、[ ] 内の語を必ず一度は使い、最初に使用した箇所には下線を付せ。

[ 需要 輸入 ]

- C 次の図は、江戸時代初期における日本の外交の様子を示したものである。



- (11) 江戸幕府による鎖国政策の目的を2つ記せ。
- (12) 琉球と薩摩藩の関係について、薩摩藩は琉球王国を軍事的に征服したものの、琉球王国を表面上は独立した王国の地位のまま維持させた。その目的を、中国との関係に着目して説明せよ。
- (13) 図中の蝦夷(アイヌ)に関して、江戸幕府が1798年に近藤重蔵や最上徳内らに探査させ、そこが日本の領域内であることを示す標柱を立てさせた島の名称を記せ。

4

A～Cに関して、(1)～(9)の問い合わせに答えよ。

- A 次の表は、1885年と1913年における日本の輸出額と輸入額および上位5品目とその内訳（単位：%）を示したものである。

1885年		1913年	
	輸出額 3,715万円		輸入額 63,246万円
生糸	35.1	綿糸	29.8
緑茶	18.0	砂糖	11.3
水産物	6.9	綿織物	6.2
石炭	5.3	毛織物	5.3
銅	5.0	機械類	4.5
		綿花	32.0
		鉄類	7.8
		機械類	7.0
		米	6.7
		砂糖	5.0

(『日本貿易精覧』により作成)

- (1) 表について説明した次の文章中の a, b に入る適当なことばを, a は 15~20 字程度で, b は 10~15 字程度で, それぞれ記せ。

1885 年には輸入額の上位 5 品目であった「綿糸」「綿織物」は、1913 年には輸出額の上位 5 品目になっているが, [a] ために綿業貿易の輸入額超過はむしろ増加した。一方、1885 年と 1913 年ともに輸出額 1 位品目である「生糸」は [b] ために輸入に依存せずに輸出額を増加させることができ、最大の輸出品であった。

- (2) 表中、1913 年の輸入品目の「米」に関して、日本が米を移入していた東アジアにおける日本の植民地を 2 つ記せ。

- (3) 表中、輸出品目の「銅」について、銅山における精錬所での鉛毒が、渡良瀬川流域の農漁業に深刻な被害をもたらした栃木県の銅鉛山名を記せ。

B 次の年表は、1930 年代に国内政治において軍部が台頭するまでの主な出来事をまとめたものである。

年	出来事
1930	昭和恐慌が起きた。
1931	① <u>満州事変</u> が起きた。
1932	② <u>五・一五事件</u> が起きた。
1936	③ <u>二・二六事件</u> が起きた。

- (4) 年表中の下線部①について、世論がこの事変を支持するなか、満蒙権益放棄論をとなえて満州事変を批判した雑誌『東洋経済新報』を主催した人物は誰か、記せ。

- (5) 年表中の下線部②について、この事件が国内政治に与えた影響を説明せよ。その際、「政党内閣」という語を必ず一度は使い、最初に使用した箇所には下線を付せ。

- (6) 年表中の下線部③について、このクーデタを実行した青年将校が属し、既成支配層の打倒と天皇親政を目指した陸軍の派閥を記せ。

C 次の文章は、20 世紀後半における政治体制について説明したものである。

1955 年 2 月の総選挙で、[a] は左右両派あわせて改憲阻止に必要な 3 分の 1 の議席を確保し、10 月には左右両派の統一を実現した。保守陣営でも、財界の強い要望を背景に、11 月に④日本民主党と自由党が合流して自由民主党を結成し、初代総裁には鳩山一郎が選出され、ここにいわゆる⑤55 年体制が成立した。以後 40 年近く、自由民主党一党優位のもとでの保革対立という構造が継続した。

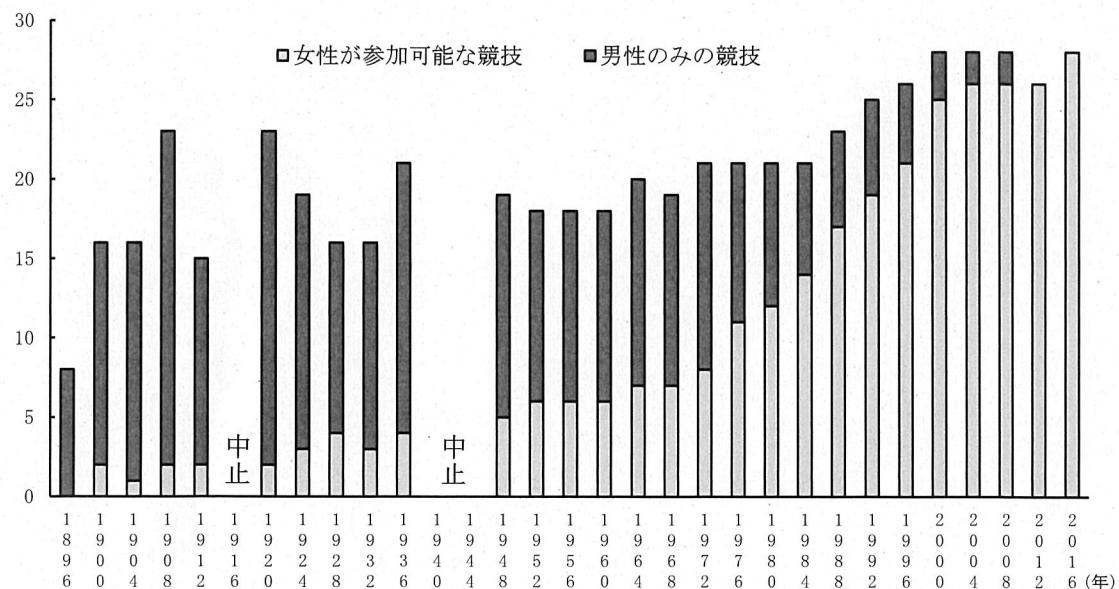
- (7) 文章中の a に当てはまる政党名を記せ。
- (8) 文章中の下線部④について、これを何というか、記せ。
- (9) 文章中の下線部⑤について、55年体制の崩壊とされる、1993年に38年ぶりに政権交代が実現したときに首相に就任した人物は誰か、記せ。

5

高等学校学習指導要領に関する次の問い合わせに答えよ。

高等学校学習指導要領(平成30年公示)の地理歴史科の「歴史総合」「C国際秩序の変化や大衆化と私たち」において、「(4)国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題」を扱う場合、あなたならどのような学習指導を展開するか。観点と問い合わせを設定し、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせるための工夫を取り入れた学習指導の展開例を示せ。その際、次の資料1と資料2を活用して、学習指導を展開せよ。

資料1 近代オリンピック大会（夏季）における競技数と女性が参加可能な競技数



(国際オリンピック委員会の資料により作成)

資料2 ある女性オリンピック選手の死去を報じる新聞記事の抜粋

著作者の権利保護のため  
掲載を省略

※)陸上競技選手の人見絹枝。1928年に日本女性初のオリンピックのメダリストとなった。

(「東京朝日新聞」1931年8月3日より抜粋)

高・地理歴史（日本史）1

受検番号	
------	--

氏名	
----	--

※印のところは記入しない

※

令和8年度採用 山梨県公立学校教員選考検査

※

### 高等学校 地理歴史（日本史） 解答用紙

1	(1) ポドゾル	(2) 貿易風	(3) プライメートシティ
	(4) 茄子	(5) 宗教協約 (コンコルダート)	(6) パレスティナ暫定自治協定 (オスロ合意)
	(7) 庚午年籍	(8) 天正遣欧使節	(9) 德富蘇峰
	(10) 中國	②×10	

2	(1) 盗賊や乱闘が多くなり、災厄がしきりにおこった社会的状況が仏教の説く末法の世の姿によく当てはまると考えられ、現世の不安から逃れて、阿弥陀仏を信仰することで来世において極楽浄土に往生し、悟りを得ようとする浄土教の教えが広まった。
	④

2	(2) 主人の死後は殉死することなく、跡継ぎの新しい主人に奉公することを義務付けたもので、これにより主人の家は代々主人であり続け、従者は主人個人ではなく主家に奉公する関係が固定され、下克上はなくなった。
	④

3	(1) ア 長安 ② イ 条坊 ② ウ 朱雀 ②
	(2) 桓武天皇 ②
	(3) 人口増加による口分田の不足を補い、税の増収を図るため、新たに灌漑施設を設けて未開地を開墾した場合は3世にわたり、旧来の灌漑施設を利用して開墾した場合は本人1代のあいだ、田地の保有を認めた。
	(4) 多賀城 ② (5) ア Z ① イ Y ① ウ X ①

(裏面に続く)

高・地理歴史（日本史）2

(6)	ウ ②	(7)	ア	寄合 ②	イ	惣 捷 ②	ウ	村 請 ②
(8)	エ ②	(9)		見世棚 ②				
(10)	宋錢や明錢など輸入錢が主に使用されたが、貨幣の需要の増大とともに粗悪な私鑄錢も流通するようになったため、取引に際して悪錢の受取を拒み、良質の錢を求めたこと。							
(11)	キリスト教を禁教とするため。				貿易を幕府の統制下におき利益の独占 ② を図るため。			
(12)	琉球に独立した王国として中国との朝貢貿易を継続させることで、朝貢貿易によって得られた中国の産物を得ようとした。							
(13)	押捉島 ②							

4	(1)	a	原料となる綿花は輸入に依存した ②	b	国産の繭を原料としていた ②				
	(2)	朝 鮮 ②	台 湾 ②	(3)	足尾銅山 ②	(4)	石橋湛山 ②		
	(5)	大正末以来継続していた政党内閣が崩壊し、戦後になるまで復活しなかった。③							
	(6)	皇道派 ②	(7)	日本社会党 ②	(8)	保守合同 ②			
	(9)	細川護熙 ②							

5	観点を「平等・格差」、問い合わせを「近代オリンピックの開催当初、男子選手に比べて女子選手が極めて少なかったのはなぜだろうか？」とする。 資料1を提示して「近代オリンピックにおいて女性が参加可能な競技数はどのように推移しているのだろうか？」という推移や展開を考察するための問い合わせを投げかける。次に資料2を提示し、「このような新聞記事は、資料1から読み取れる、女性が参加可能な競技数の推移とどのような関係があったのだろうか？」という事象同士の関係性を考察するための問い合わせを投げかけ、男女の身体および社会的役割についての一般的考え方やマスメディアの影響など、スポーツの分野における女性の進出と大衆化との関係について考察し、表現する学習を展開する。 そして「今回取り扱った事象と類似した現代の事象は何だろうか？」という現在とのつながりを考察するための問い合わせを投げかけ、ジェンダーに基づく男女間の不平等は、現在においても対応が求められる課題として残存していることに気付かせる。⑩							
---	--	--	--	--	--	--	--	--